



# 共生の時代

'09  
10月

●発行:グリーンコープ共同体理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092 (481) 7923 FAX092 (481) 7876



エコウェブおかやま世話人  
3R推進マイスター (環境省依頼)  
岡山県地球温暖化防止活動推進員

## 成田 美和子 さん

### プロフィール

北海道に生まれる。父の転勤で、鹿児島や岡山などに移り住む。1980年結婚。夫の仕事でアメリカに2年滞在。帰国後、地域活動や市民活動に関わりはじめる。現在、岡山市在住。夫・長女夫婦の4人暮らし (長男は独立して東京在住)。グリーンコープ生協おかやま組合員

## エコの波を広げ スローな社会を

### 「楽

しいことしかしたくない。本当は、なまけものなの」と、いたずらっぽく笑う。

エコ活動のきっかけは、1991年、当時加入していた生協の地域運営委員としてごみの埋め立て地を見に行ったことだった。「ごみですぐにいっぱいになるので、次々に土地を探さなければならぬ」と言う市の職員の言葉に衝撃を受けた。「こんなことがいつまでも続けられるわけがない!」と仲間と共にごみを分別してリサイクル業者に持っていく活動をはじめた。

せっけんにも興味を持ち、学習会の開催などをしていた頃のこと。当時まだ岡山にはなかったグリーンコープのせっけん情報用の冊子に出会い、共感。すぐに取り寄せ、学習会の教材として使った。そのグリーンコープが岡山にできたとき、2005年、早速加入。「せっけん以外にも、世

食べものや原発に対する考えなど、グリーンコープの姿勢に共感しました」。

その考えは、「エコウェブおかやま」にも通じる。「環境に負荷をかけない、シンプルな暮らし方を」と情報誌の発行やイベントの開催などで呼びかけてきた。このように地元に着目して活動する中で、最近ではスローな暮らしや農業に興味を持つ若い仲間が増えてきた。「スローライフって、人間が本来持っているリズムで生活すること。それが弱者をいたわる心のゆとりを持っている社会につながるのでは」。

こう思うようになったのは、成田さんの長女がうつ病になったのがきっかけだった。「しんどい」と思っている人は実はたくさんいるのに、自分が元気だといふ気付きが過ぎた。娘のおかげで気付くことができたんですよ」。

人にも、自然に、やさしい暮らし方を求める人が増え、世の中の価値観が少しずつ転換していることを感じつつ、「この波(エコのウェーブ)をもっと大きく、力強いうねりにしていければ」と思う。

ごみの問題から、洗剤、化学物質、食、農、温暖化、南北問題と関心は次々と広がっていく。それらはすべてつながっている、そして便利さや利益の追求が節度を忘れて行き過ぎた結果、と感じている。公民館講座等では、それを難しく語るのはなく、日々の暮らしでの「エコは楽しい」の実感を込めて伝えている。

「エコやスローって本当の意味での快楽だと思う。楽しくてほっとできる暮らしを広めて社会を変えていきたい。そんな活動の仲間と価値観を共有できる幸せは最高。いろんな人と気持ちがあふれる喜びを自己満足に終わらせず、もっと広げていきたいなあ」。

成田さんの茶目つぱなつぶりの目がきらりと光った。

## 秋の組合員のつどい 展開中



### Contents

|                                                    |     |
|----------------------------------------------------|-----|
| ホームレス問題を考える 7                                      |     |
| グリーンコープはホームレス支援に取り組めるまでに成熟しました                     | 2   |
| うちのメーカー・うちの生産者 ㊟                                   |     |
| チョーコー醤油 (株) 国産丸大豆醤油                                | 3   |
| GMナタネによる環境汚染<br>食品表示制度の義務化へ向けて<br>食と農から生物多様性を考えよう! | 4・5 |
| ～グリーンコープのこだわり再発見!～ 九州産落花生<br>国産へのこだわり、広がる九州産落花生の生産 | 6   |
| 見過ごせない! 自生GMナタネ<br>「GMナタネ抜き取り隊」立ち上げ準備会の開催          | 7   |

秋。わが家では冬に仕込んだ味噌が仕上がる楽しみな季節だ。手作りに挑戦して6年になる。材料はもちろろん、グリーンコープの国産大豆と麹だ。初めの頃は、豆を熟いうちに潰しきれずに粒が残ったり、量が多くて豆と麹を均等に混ぜあわせられなかったり。それでも毎年わが家なりのおいしい味噌ができて、酵母の持つ生命力に驚かされる。失敗を重ねながら年々、手際が良くなり、経験に勝るものはないと実感する。

また、現在高校生の娘は、

### 送 信

初めはお手伝い程度だったが、次第に積極的にかわり、作業も安心して任せられるようになった。気が付くと頼れる存在になっていて、思いがけず娘の成長を知る。今では息もぴったりで、母娘の共同作業を楽しんでいる。

味噌作りのお陰で、手間暇をかけてものを作ることの大変さが分かり、一層食べものや作り手の人への感謝の気持ちを持つようになった。娘もきっと同じにちがいない。

グリーンコープ生協おかやま理事長  
林 和子



ホームレス問題を考える 7

# グリーンコープはホームレス支援に 取り組めるまでに成熟しました



初代会長 故 武田桂二郎さん



組合員総会のような様子 (旧ほくちく生協)

2006年、グリーンコープは生活再生事業を開始しました。「生協は商品を配達するもの」という社会の常識の中で、このような分野に踏み込んだグリーンコープの取り組みは社会の耳目を集め、その後の事業内容の質の高さから大きく評価されてきています。

今、グリーンコープは生活困窮者の自立支援施設「抱樸館福岡」の2010年5月開設をめざして、建設に着手しています。改めてそこに至るまでの足どりを振り返ってみます。

「生協の主体は組合員」  
それを貫く

グリーンコープが生活再生事業に取り組めるようになったカギはいくつかあげることが出来ます。その一つは「生協」と「組合員」の関係にあります。

約40年前、食品公害などを背景に、全国の都市部を中心に一斉に共同購入型の生協が生まれました。何も無いところから生協を生み出したのは、新しく「市民」として登場した女性たちでした。この新規の共同購入型生協は、生協と組合員という関係からみると、主体は生協ではなく組合員でした。女性たちは自らを生かす場として生協に関わ

つていきました。当時、日本ではすでに店舗生協が市民権を得ていたという背景があります。その場合の生協と組合員の関係は、「物品販売業者としての生協」と、「お客さんとしての組合員」で、組合員の主体性は希薄だったと言えます。

カエルに進化するために

誕生した生協は当然事業として継続させていく必要があります。ところが、1970年代に設立された組合員数が数千から2万人くらいまでの小規模な生協は、やがて事業的にたゆまなくなりました。1988年のグリーンコープ結成は、それだけがそのままで生き延びていけないという状況下での大同団結でした。

その後も順風満帆だったわけではありません。合併をしてグリーンコープという生協をどのような生協にするか、抱えていた莫大な債務をどう解決するのかという命題が先決事項という状況でした。さらに1991年当時の日本の在宅主婦数は900万人、一方、

生協の共同購入組合員数は600万人に達するという飽和状態で、そのままでは発展は望めないところまで来ていました。当時のグリーンコープ連合専務行岡良治(現社会福祉法人グリーンコープ理事長)はこの苦境を次のようなたとえ話で語っていました。

「生協は轍に残された水の中で生きている魚に似ている。水(共同購入)から飛び出してしまえば死んでしまう。そうかと言って水の中にいれば、そのうち水が干上がって、やはり死んでしまう。生協は魚のままでは生き残れない。生協はせめて魚(魚類)からカエル(両生類)程度への進化が必要なのだ」と。

ワーカーズを多数、  
多様に誕生させる

カエルへと進化をとげるヒントはグリーンコープの「人間観」にありました。グリーンコープは人間を「生きる」という衝動に突き動かされている存在と捉えました。人間は例えば母親として、女として、地域の住人として、というようにさまざまな立場、位置、関係の中で精一杯生きています。そのみずみずしく生きる運動を生協運動という場において最大限に生かしたい、そのことがグリーンコープの真髄であ

ると考えてきました。

1970年代に花開いた女性たちの「生きる運動」は、グリーンコープ結成後の一時期、自らを物品販売業者であるとする自己規制の状況の中で出口を見出せないでいました。そのような状況が経過する中、グリーンコープが大きく変革していくきっかけになったのが、1995年の「グリーンコープ福祉連帯基金」設立でした。そのあたりを契機に多数の「ワーカーズ」が誕生し、生きる運動の具現者として活動を開始してきます。

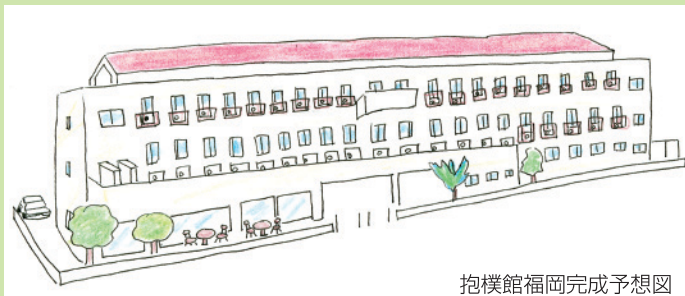
2009年度現在グリーンコープのワーカーズ数3471人、組合員事務局数406人、理事・委員など組合員役員の数3349人。合わせると7226人にのぼります。これは組合員40万人に対して、55人に1人がグリーンコープの内であって自らを生かす運動と働き方を展開しているということになりました。

人は生かされてはじめて他も生かすことができます。この多数のワーカーズの存在がホームレス支援へ向かうカギの一つと考えます。

「生命運動」が展開される場こそ「地域」です

グリーンコープ初代会長の故武田桂二郎さんは偉大な思想家であり、その実践

## 抱樸館福岡



抱樸館福岡完成予想図

「抱樸館福岡」とは、社会福祉法人グリーンコープがNPO法人北九州ホームレス支援機構の協力のもとで運営する施設です。「抱樸館」という名称は、北九州ホームレス支援機構が職業や住まいを失った人々を支援してきた施設の名を継承しています。

に生涯を捧げた人でした。グリーンコープは武田さんの「言葉」に何度も助けられました。グリーンコープの「安心・安全・こだわり」の商品や「環境」「平和」など、日々の取り組みを、武田さんは「生命を育む」「食べもの運動」と位置付けたのです。その言葉を与えられることによって組合員は初めて、自分たちが実践していることが何なのかに気付かされました。それまでばらばらに散らばっていたように思えた「モノ」や「コト」が「生命運動」という一本の線上にすっとつながっているのを誰もが実感することができたのです。

また武田さんは、人間が暮らす「地域」を「生命活動が展開される空間的な場」と位置付けました。組合員が自分の住む地域の中で、地域の人たちと共に生き生きと暮らすことが、地域を本当に豊かにすることだとし、それをめざしました。今、グリーンコープはよう

やく武田さんが夢見た「地域」へ到達しようとしています。生活再生事業はスタートからわずか3年間で1700人もの人たちの問題を解決しました。自殺者が毎年3万人を超える現代に一灯を掲げたと言えます。

同様に、80部屋を有する「抱樸館福岡」の開設、それは間違いなく私たちにとても希望となるものです。「抱樸館福岡」の運営で協力関係となるNPO法人北九州ホームレス支援機構は、グリーンコープと同じ20年の活動の歴史を持ちます。しかし、20年前はお互いの活動は視界には入っていませんでした。今私たちの視界には多くの生活困窮者が、共に生きる生命として見えはじめています。

振り返ってみれば、グリーンコープはカエルになるほどの進化をとげることができました。生活再生事業や抱樸館福岡の取り組みはその実りだと言えます。



# 国産丸大豆醤油



取締役 営業部長  
小林政樹さん

この秋、グリーンコープの醤油製造メーカーの一つで、3種(こいくち醤油、うす塩醤油、うすくち醤油、うす塩醤油)を製造する「チョーコー醤油(株)」の製造部門、長崎県大村市にある長工醤油味噌協同組合の工場を取材した。

この秋、グリーンコープの醤油製造メーカーの一つで、3種(こいくち醤油、うす塩醤油、うすくち醤油、うす塩醤油)を製造する「チョーコー醤油(株)」の製造部門、長崎県大村市にある長工醤油味噌協同組合の工場を取材した。

結束して苦難を乗り越える  
チョーコー醤油は、1941年に長崎県下の醸造元29軒が、共存共栄と合理化をめざし、共同での生産・販売施設、長崎醤油味噌醸造工業組合を長崎市内につくったことがはじまりだ。「長崎」の「長」と「工業」の「工」を取り入れ、組合の繁栄と長崎の発展を祈念して商標「長工醤油(チョーコー)」が誕生する。

組合設立3年後の1945年、長崎に原子爆弾が投下され、設備の大半を失う壊滅的な被害を受けた。「醤油や味噌づくりは設備と原料を仕込んで製品になるまで1年はかかるのでかなり元手が要ります。だからこそ、醸造元はこの危機を乗り越えようと一致団結したんだと思います」と小林さん。個々の利害を超えて長崎の地に伝承する醤油味噌づくりの技術を残すことに傾注したという。

確かな技術力で  
国産丸大豆本醸造  
醤油は大豆と小麦と塩が原料。麹の力で熟成させる至ってシンプルな製造方法だから、その配合や熟成期間によって、味、風味、香



長工醤油味噌協同組合  
技術部 部長  
加藤秀男さん

今回の仕込み量は18万リットル。2重構造の間に入れる水で温度調節ができ、16%の塩分濃度でも100年以上上銷びないというスーパーステンレスの特注タン



福岡支社 係長  
坂田秀喜さん

ほんものの醤油を  
広めていきたい  
「いろいろな製法を試みたことがあるんですが、本醸造以外は考えられませんでした」と言い切る加藤さん。一般的に醤油は、本醸造と混合醤油に大別される。

「健康」とおいしさをお届けする」をモットーに、現代の食生活のニーズに応えながらも、ほんものにこだわり、より豊かな食文化の創造をめざす。

「健康」とおいしさをお届けする」をモットーに、現代の食生活のニーズに応えながらも、ほんものにこだわり、より豊かな食文化の創造をめざす。

「健康」とおいしさをお届けする」をモットーに、現代の食生活のニーズに応えながらも、ほんものにこだわり、より豊かな食文化の創造をめざす。

今回の仕込み量は18万リットル。2重構造の間に入れる水で温度調節ができ、16%の塩分濃度でも100年以上上銷びないというスーパーステンレスの特注タン

今回の仕込み量は18万リットル。2重構造の間に入れる水で温度調節ができ、16%の塩分濃度でも100年以上上銷びないというスーパーステンレスの特注タン

今回の仕込み量は18万リットル。2重構造の間に入れる水で温度調節ができ、16%の塩分濃度でも100年以上上銷びないというスーパーステンレスの特注タン

## こいくち国産丸大豆醤油(ひしお)のできるまで

**国産小麦**

炒る

炒った小麦を粉砕しておく

**国産丸大豆**

洗浄 浸漬

蒸す

連続蒸煮缶で蒸して冷やしておく

種麹を加える

**麹づくり**

自動製麹装置で麹をつくる。1回30トン、約3日かけ、温度・湿度をコンピュータで管理

**仕込み**

麹と食塩水を混ぜてよく攪拌する

**発酵・熟成**

もろみ発酵タンクの中でじっくりと熟成させる。压榨機に送るラインの中で、上部に浮いている大豆油を抜き取る

**圧搾**

もろみ压榨機で搾る。400mのろ布にもろみを重ね、重ねて压榨機に入れていく。1日目はもろみの重みでの自然だれ、その後は圧をかけて搾る。搾り粕は、牛の飼料になる

**加熱殺菌**

自動連続殺菌装置で殺菌する

**ろ過**

不純物をろ過して、清澄タンクに入れる

**検査**

検査用にサンプルを抜き取って、検査室で品質を確認する

**充填**

充填機で、リユースびん(900ml)に充填する

※本醸造のもろみにアミノ酸液などを加えて発酵・熟成させる混合醸造方式と、本醸造の生しょうゆにアミノ酸液などを混ぜる混合方式を総称して混合醤油と言われている



GM食品の表示は豆腐・納豆などごく一部の食品に限られ、一方たね油など多くの食品がGM表示を免れている。加工食品の原料原産地表示ができれば、どこの国から輸入されたのか、遺伝子組み換えの有無、農薬の使用状況などが明らかにされる。2009年6月体細胞クローン家畜由来食品が安全であると評価した。体細胞クローン家畜は死産及び肥育期の病死が異常に多発している。にもかかわらず、その原因や影響を解明できていない。また、遺伝子組み換え食品の安全性もまだ不明である。消費者は食品の表示を慎重に検討し、購入する必要がある。

2009年6月体細胞クローン家畜由来食品が安全であると評価した。体細胞クローン家畜は死産及び肥育期の病死が異常に多発している。にもかかわらず、その原因や影響を解



# GMナタネによる環境汚染、 食品表示制度の義務化へ 食と農から生物多様性を

2009年

**ABS問題って  
何だろう？**  
遺伝資源から生じる  
利益の公正かつ公平な配分

## それは地球の豊かな 自然の恵みとの 共生を考えること

地球上には、現在知られているだけでも約180万種の生物が、実際はその7～8倍もの生物が存在していると言われています。人間をはじめとするそれらの生物は相互に関係しながら、それぞれに役割を持って地球上に存在しています。それを維持するための国際会議が、2010年名古屋市で開催されることになっています。その会議の議題になっている「遺伝資源から生じる利益の公正かつ公平な配分（ABS）」問題に迫ります。

地球上には、現在知られているだけでも約180万種の生物が、実際はその7～8倍もの生物が存在していると言われています。人間をはじめとするそれらの生物は相互に関係しながら、それぞれに役割を持って地球上に存在しています。それを維持するための国際会議が、2010年名古屋市で開催されることになっています。その会議の議題になっている「遺伝資源から生じる利益の公正かつ公平な配分（ABS）」問題に迫ります。

生物多様性条約の目的は、①生物の多様性の保全②生物資源の持続可能な利用③遺伝資源から生じる利益の公正かつ公平な配分、の3点。その中の③が、2010年名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議での論点の一つとなっている「ABS (Access and Benefit Sharing)」です。途上国は自国の

遺伝資源とは、植物や動物、微生物に至るまで遺伝子を持つすべての生物で資源として利用されるものです。それらの多くが途上国側に存在し、その地域の住民や先住民の生きる知恵として何世代にも亘って守られてきた伝統的なものが多いのです。それが今や、食品や医薬品、化粧品などの分野において先進国側の人々にとって不可欠なもの

例えば、マダガスカル島の熱帯雨林に生育するニチニチソウという植物は、島の先住民が古くから使ってきた伝統的な糖尿病治療の民間薬です。それをアメリカのバイテク企業イーライ

地球は、豊かな生命に満ち溢れています。その恩恵を受けて私たちの生命と生活は成り立っています。それらは「遺伝資源」と言われ、地球が育む生物多様性という環境の中で大切に守られてきました。しかし、地球上の生物多様性は、自然破壊や環境悪化と共に失われてきました。

豊かな地球資源を守るために  
そのような状況を何とか打破すべく開催されたのが地球環境サミット。その時誕生したのが、生物多様性条約です。気候変動枠組み条約と共に環境を守るための国際条約として、1992年に採択され、1993年発効しました。

遺伝資源は誰のもの？  
遺伝資源とは、植物や動物、微生物に至るまで遺伝子を持つすべての生物で資源として利用されるものです。それらの多くが途上国側に存在し、その地域の住民や先住民の生きる知恵として何世代にも亘って守られてきた伝統的なものが多いのです。それが今や、食品や医薬品、化粧品などの分野において先進国側の人々にとって不可欠なもの

例えば、マダガスカル島の熱帯雨林に生育するニチニチソウという植物は、島の先住民が古くから使ってきた伝統的な糖尿病治療の民間薬です。それをアメリカのバイテク企業イーライ

地球は、豊かな生命に満ち溢れています。その恩恵を受けて私たちの生命と生活は成り立っています。それらは「遺伝資源」と言われ、地球が育む生物多様性という環境の中で大切に守られてきました。しかし、地球上の生物多様性は、自然破壊や環境悪化と共に失われてきました。

豊かな地球資源を守るために  
そのような状況を何とか打破すべく開催されたのが地球環境サミット。その時誕生したのが、生物多様性条約です。気候変動枠組み条約と共に環境を守るための国際条約として、1992年に採択され、1993年発効しました。

遺伝資源は誰のもの？  
遺伝資源とは、植物や動物、微生物に至るまで遺伝子を持つすべての生物で資源として利用されるものです。それらの多くが途上国側に存在し、その地域の住民や先住民の生きる知恵として何世代にも亘って守られてきた伝統的なものが多いのです。それが今や、食品や医薬品、化粧品などの分野において先進国側の人々にとって不可欠なもの

例えば、マダガスカル島の熱帯雨林に生育するニチニチソウという植物は、島の先住民が古くから使ってきた伝統的な糖尿病治療の民間薬です。それをアメリカのバイテク企業イーライ



イルス由来の物質が導入される。この物質は外来の遺伝子を常時働かせるためのもので本来細胞が持っている調節のしくみとは無関係に働くためどんな影響があるかわからない。GM作物がほんとうに安全なのかという点からの研究は弾圧され、企業などGM推進側に押されて、安全指針が緩められてしまっているのがGM技術研究の実態である。

花粉によるGM遺伝子の飛散が生態系に与える影響は十分な調査が必要だがすんではない。GM遺伝子が環境に拡がったら汚染を取り除くことは難しい。こうしたGM生物による損害に対する責任・補償について、日本政府は故意や過失が立証されない限り開発者に責任がないと主張している。そうなると思



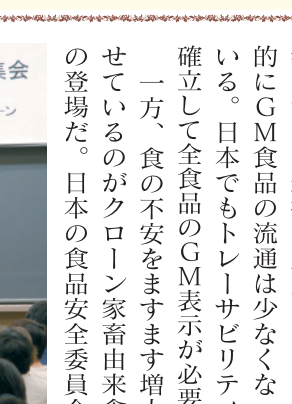
天笠 啓祐さん

明しないまま 通常の畜産と実質同等と見なし、安全と評価する姿勢には問題がある。すでに、アメリカでは、体細胞クローン家畜食品は表示なしで出回っている。消費者は「クローン由来食品は食べたくない」と思っても、選択する情報さえ与えられない。アメリカ産の体細胞クローン牛肉はすでに輸入され知らないうちに食べてしまっているかもしれない。これはもはや、壮大な人体実験だ。GM動物由来食品（GMサケなど）同様、表示なしの可能性が高い。

ある。むしろ賛成派が技術を利用することばかりに熱心で、GM作物や生物が与える影響や危険性について知ろうとしないことが問題である。

農水省のホームページに書いてあるとおり、「GM技術とは、ある生物から目的とする有用な遺伝子を取り出して別の生物に導入することにより、改良しようとする生物に新しい性質を付与する技術」である。その生物

花粉によるGM遺伝子の飛散が生態系に与える影響は十分な調査が必要だがすんではない。GM遺伝子が環境に拡がったら汚染を取り除くことは難しい。こうしたGM生物による損害に対する責任・補償について、日本政府は故意や過失が立証されない限り開発者に責任がないと主張している。そうなると思



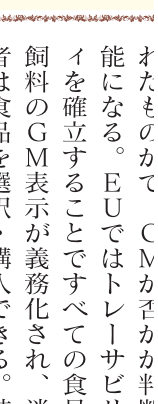
天笠 啓祐さん

明しないまま 通常の畜産と実質同等と見なし、安全と評価する姿勢には問題がある。すでに、アメリカでは、体細胞クローン家畜食品は表示なしで出回っている。消費者は「クローン由来食品は食べたくない」と思っても、選択する情報さえ与えられない。アメリカ産の体細胞クローン牛肉はすでに輸入され知らないうちに食べてしまっているかもしれない。これはもはや、壮大な人体実験だ。GM動物由来食品（GMサケなど）同様、表示なしの可能性が高い。

ある。むしろ賛成派が技術を利用することばかりに熱心で、GM作物や生物が与える影響や危険性について知ろうとしないことが問題である。

農水省のホームページに書いてあるとおり、「GM技術とは、ある生物から目的とする有用な遺伝子を取り出して別の生物に導入することにより、改良しようとする生物に新しい性質を付与する技術」である。その生物

花粉によるGM遺伝子の飛散が生態系に与える影響は十分な調査が必要だがすんではない。GM遺伝子が環境に拡がったら汚染を取り除くことは難しい。こうしたGM生物による損害に対する責任・補償について、日本政府は故意や過失が立証されない限り開発者に責任がないと主張している。そうなると思



天笠 啓祐さん

明しないまま 通常の畜産と実質同等と見なし、安全と評価する姿勢には問題がある。すでに、アメリカでは、体細胞クローン家畜食品は表示なしで出回っている。消費者は「クローン由来食品は食べたくない」と思っても、選択する情報さえ与えられない。アメリカ産の体細胞クローン牛肉はすでに輸入され知らないうちに食べてしまっているかもしれない。これはもはや、壮大な人体実験だ。GM動物由来食品（GMサケなど）同様、表示なしの可能性が高い。

食品表示の抜本的改正を求める集会

主催 遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン



天笠 啓祐さん

明しないまま 通常の畜産と実質同等と見なし、安全と評価する姿勢には問題がある。すでに、アメリカでは、体細胞クローン家畜食品は表示なしで出回っている。消費者は「クローン由来食品は食べたくない」と思っても、選択する情報さえ与えられない。アメリカ産の体細胞クローン牛肉はすでに輸入され知らないうちに食べてしまっているかもしれない。これはもはや、壮大な人体実験だ。GM動物由来食品（GMサケなど）同様、表示なしの可能性が高い。



# 国産へのこだわり

## 広がる九州産落花生の生産



### 九州産落花生



熊本市菊陽町の石本巨万さんの落花生畑

2009年7月28日、熊本市で落花生生産者との交流会（生産奨励金の贈呈式）が開催され、グリーンコープ生協くまもとの組合員が、オールグリーンコープの組合員を代表して参加しました。また、2009年8月10日には組合員による九州産落花生産地への視察・交流も開催されました。

国産の落花生栽培は、グリーンコープの日本の農業を守り育てる取り組みの一環です。2008年度からは「九州産落花生」として広がり、「生産奨励金」制度もはじまりました。

取り組みをととしてグリーンコープの国産へのこだわりに迫ります。



### 2009年度

### 落花生生産者との交流会 （生産奨励金の贈呈式）

#### 国産へのこだわり

グリーンコープは、国産にこだわり、日本の農業を守り支える取り組みを行っています。醤油の原料大豆をすべて国産丸大豆に切り替えることや、国産のなたね油のための菜種の栽培面積を増やす取り組みも着実に広がっています。

また、これまで外国産のものに頼っていたごまやたけのこ、にんにくなども生産者の協力を得て国産化に取り組みんでいます。

#### 九州産落花生の実現

国産落花生の生産は千葉県が最大の産地ですが、以前は熊本県も国内の年間消費量の2割をまかなう産地でした。しかし、1965年頃をピークに連作障害による収穫の減少や嗜好の変

化、安価な中国産の輸入などで、栽培する農家が激減してきているのが現状です。

グリーンコープは、国産農産物へのこだわりの一環として、熊本や九州圏内で落花生の栽培ができないかと考えました。2007年度くまもとが単協開発として取り組んだ「熊本県産落花生」を、2008年度は「九州産落花生」として広げることになりました。産地を広げるにあたっては、生産者やメーカーと共に「生産奨励金」の仕組みを準備し、一人ひとりの生産者を回って呼びかけを行いました。結果、11人の生産者（熊本県8人、長崎県3人）がグリーンコープの取り組みに賛同し、280aの畑で作付けが実現しました。残念ながら長崎県での栽培・収穫がうまくいかず、熊本県でのみ、2898kgを収穫。作付面積に応じて、生産者



生産者一人ひとりに、総額321万6千円の生産奨励金を手渡され、会場いっぱい笑顔が広がった

#### 実りある交流

交流会は、落花生生産者17人、熊本ピーナッツ（下処理・株南風堂（製品加工）、（株）いんま（卸）など取引メーカー5人、共同代表理事・くまもとの組合員・職員13人、その他の関係者を合わせて、43人が

初めて一堂に会しました。最初に、共同代表理事田中裕子さんが、『九州産落花生』の取り組みは2年目ですが、生産奨励金の贈呈式は今回がはじめて。生産奨励金は国産の食べものを大切にし、日本の農業を守るために取り組んでいきます。お互いに信頼を深め、この取り組みをすすめてい

きましょう」と挨拶しました。次いで、くまもとの理事長久米田薫さんが、「組合員の食を守り、生産者の生活を支え、国産を広げること、日本の農業を守る取り組みとなって、少しずつですが着実に広がっています。組合員にとっては、求めている安心で安全な食

べものを得ることができるということでもあります」とグリーンコープの取り組みについて報告。その後、生産者の石本さんから2008年度の落花生の生長と収穫のようすがスライドを使って説明されました。生産者の中には落花生の栽培が初めての人や20年ぶりという人もいて、生産者同士の出会いも今回が初めてで、栽培の方法など活発に意見交換されました。

最後に、くまもとの利用推進委員長濱崎弘子さんが「国産の食べものの貴重さやこの交流会をとおして学んだことを、多くの組合員に伝え、『九州産落花生』の利用を広げたい」とアピ

## グリーンコープ生協くまもとが 「九州産落花生」生産者と組合員の初めての 視察・交流会をしました



落花生の黄色い花から子房柄が伸び、実をつける。さやにある網目模様の維管束から土の栄養分を吸収して、実太りする



熊本ピーナッツは戦後すぐに操業。工場では使い込まれた木製の道具が今もしっかり仕事をしています

2009年8月10日、くまもとは初めての試みとして、落花生の産地の視察と生産者やメーカーとの交流会を熊本で実施しました。生産者4人、組合員・職員・ワーカーズ約30人、関連取引メーカー（熊本ピーナッツ・南風堂・いんま）など46人が参加しました。

生産者の石本さんの落花生畑で収穫間近の落花生を手にとって、育成から収穫まで栽培の流れについて学びました。参加者は、生産の現場を具体的に見て体感し、九州産落花生を広げていく取り組みに関する多くの「語る言葉」を獲得することができました。

落花生は4月末に播種、6月末頃黄色い花が咲きはじめます。その花が散る8月頃、子房柄が土に向かって伸び、土の中で繭のようなさやになりその中に実ができます。草取りをしながら土を寄せ、土の中で実を太らせます。炎天下での草取りの作業が続きます。秋になって9月半ばに収穫。一株に40個くらいの実が付きます。干して乾燥、さやを取って麻袋に入れピーナッツ工場に届けます。

一次加工工場の熊本ピーナッツでは、収穫した落花生を前処理する過程を視察しました。収穫された落花生は工場です洗いされた後、乾燥・選別されます。生産者ごとに大きな麻袋にいれて温度（5℃程度）・湿度（65～70%）が調整された倉庫で保管。グリーンコープの注文に応じて製品化する加工工場（南風堂）に送られます。



＊九州産落花生の生産奨励金

生産奨励金は、グリーンコープが生産者に、生産を継続・再生産してもらうために準備した仕組み。①熊本県産殻付き落花生 70gは40円、②熊本県産皮付きピーナッツ（味付）60g他3品には45円を含んだ価格にして、10a当り8万円の生産奨励金の財源となる



# 見過ごせない！自生GMナタネ

## 自生GMナタネ調査活動

グリーンコープは、GM問題が浮上した当初から「いのち・くらし・自然」を守る視点で「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」を中心にした社会的な活動を続けてきました。

## グリーンコープ生協ふくおか「GMナタネ抜き取り隊」立ち上げ準備会の開催

遺伝子組み換え（GM）ナタネの輸入によって、GMナタネと在来種が交雑し、GM汚染が広がることを懸念し、グリーンコープは、2005年から自生GMナタネ調査活動に取り組んでいます。

5年間の調査結果を踏まえ、グリーンコープ生協ふくおかでは、2009年8月29日、地域で広がりつつある自生ナタネの問題に組合員一人ひとりが向きあい、自分たちが住む地域の食べものの安全と環境を守る活動として「GMナタネ抜き取り隊」の立ち上げの準備をスタートさせました。



▲数日前に大きく成長したGMナタネは引き抜かれており、その側などに一週間ほど前に発芽したナタネが育っている



▲他の草とナタネを見分ける ▲引き抜かれた成長した自生ナタネ

## 福岡県での自生GMナタネ調査結果 (2005年～2009年)

| 調査年   | 調査箇所  | 陽性   | 擬陽性 | 備考                                         |
|-------|-------|------|-----|--------------------------------------------|
| 2005年 | 394箇所 | 53地点 |     | 「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」の呼びかけに連動して、調査活動がスタート |
| 2006年 | 504箇所 | 20地点 |     | ナタネの輸送経路、水揚げ港にポイントを置いて調査                   |
| 2007年 | 402箇所 | 23地点 |     | 博多港周辺は、東区、博多区、中央区の各埠頭に範囲を広げた               |
| 2008年 | 75箇所  | 19地点 |     | 調査範囲を絞り込んで調査。北九州の若松の沿岸の1地点で陽性              |
| 2009年 | 77箇所  | 28地点 | 1地点 | 北九州の若松で、2008年度とほぼ同じ地点で擬陽性                  |

グリーンコープが取り組んできた自生GMナタネの実態調査の結果、ナタネの水揚げ港である博多港周辺にGMナタネが数多く自生していることが分かりました。ふくおかは、地方自治体にGMナタネによる汚染の防止を求めて要望書や意見書を届け、製油会社には

輸入ナタネ種子の飛散防止のために自生しているGMナタネの刈り取りや清掃などを要請してきました。しかし、調査をはじめてからの5年間、GMナタネが自生している実態は変わりません。

次年全国に先駆けてGMナタネ抜き取り隊を立ち上げて活動している河田昌東さん（遺伝子組み換え食品を考える中部の会・四日市大学非常勤講師）の講演がありました。「2009年度の調査では名古屋港・四日市港で過去最大数のGMナタネの自生が認められた。このままでは在来種との交雑によるGM汚染を止めることが困難な事態も予測される。また、港湾地区とは無関係な内陸部でもGMナタネの自生を発見した」というフィールド調査を中心にした深刻な実態の報告がありました。

その後、参加者全員が東区箱崎埠頭に出向き、河田さんから自生GMナタネの見分け方の指導を受けました。当日は短時間で167株のナタネを採取しました。抜き取ったナタネは焼却処分されました。

自生GMナタネの交雑を防止し、地域の環境や生物の多様性を守るために、ふくおかではもう一段取り組みを強化し、10月には「GMナタネ抜き取り隊」の立ち上げを行います。

## 投稿募集中

### 私の好きなグリーンコープ商品

- 400字程度 ●毎月月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561  
福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F  
グリーンコープコミュニケーション  
ワークス連 (REN)  
「共生の時代」編集部 宛  
FAX 092-481-7876  
Eメールアドレス  
rikoho@greencoop.or.jp

ある日、ふと、このあぶりしめさばでバッテリーを作ったらしいのではと思ひ、早速作ってみました。作り方は簡単です。うすい長方形の入れ物にラップを敷き、あぶりしめさばを2枚乗せ、その上にすし飯をうすく平

らにのせ、青しその葉を敷き詰めます。さらに、その上にすし飯を薄く乗せ、ラップで包み、同じ形の入れ物で軽く重しをします。しばらく置いて切り分けるとおいしいあぶりしめさばのバッテリーのでき上がりです。あぶりしめさば2枚にご飯は2合弱ぐらい使うので、ボリュームもあります。さばがあぶってあるので、バッテリーが苦手な人でも食べやすいと思います。

西村 弘美

## 「GMナタネ抜き取り隊」の立ち上げ準備会

8月29日に開催された「GMナタネ抜き取り隊」の立ち上げ準備会には、組合員、福岡市農協、福岡市現業職員労組学校給食支部、福岡市学校給食公社労組、グリーンクラブ、青果の会、和自干潟を守る会、共同購入などのワーカーズ、ふくおかネットワーク、全体で116人が集いました。

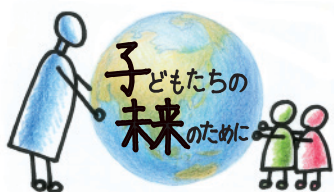
ふくおか理事長田原幸子さんから「5年前、調査活動をはじめた時から博多港周辺、北九州の筑前町あたりの自生を確認しました。港から拡散しないように行政やメーカーに要請してきました。行政に頼るだけではなく自分たちの力で継続的に活動をしていく必要もあると判断し『GMナタネ抜き取り隊』を立ち上げることになりました」と挨拶がありました。

私の好きなグリーンコープ商品

私にのせ、青しその葉を敷き詰めます。さらに、その上にすし飯を薄く乗せ、ラップで包み、同じ形の入れ物で軽く重しをします。しばらく置いて切り分けるとおいしいあぶりしめさばのバッテリーのでき上がりです。あぶりしめさば2枚にご飯は2合弱ぐらい使うので、ボリュームもあります。さばがあぶってあるので、バッテリーが苦手な人でも食べやすいと思います。

## 言いたい

投稿欄



No.15

## 原子力発電（原発）がくらしに及ぼす影響

原発はクリーンなエネルギーとして推進されていますが本当でしょうか？燃料であるウランの製錬・濃縮加工、原発の運転とすべての段階で多くの放射性廃棄物が生み出されます。原発で働く人々や周辺住民、そして私たちの食べものに影響がないと言えるのでしょうか？放射能はたとえ微量でも、微生物から小動物そして大きな動物へと濃縮され、数万倍になることもあります。また、食べることで体内から被曝することは外側から浴びるよりはるかに危険です。ウランを燃やすことで生み出される死の灰（核分裂生成物）は100万年に亘り生命環境から隔離しなければならないほどの猛毒です。その安全な処理方法は現在の科学ではシナリオすら書いておらず、受け入れ地もまだ決まってはいません。原発建設地はどこも豊かな自然の恵みを持つ過疎の地です。一度建設を受け入れると原発に頼るしか道はありません。安心・安全なくらし、そして子どもたちの未来のために原発について考えてみませんか？

グリーンコープ共同体制組織委員会



いま地域を考える

No.194

# 病気を隠さずに 暮らせる社会をめざして



◀ 淀江作業所のスタッフのみなさん。  
左から、高浜さん、所長の大田さん、  
榎野さん、吹野さん

淀江地域独自の郷土芸能「淀江さんご節」銭太鼓。障がいや治療薬の副作用のため、人の何倍もの練習を積み重ねてきた

「銭太鼓」とは出雲地方に古くから伝わる民俗的なリズム楽器。「銭の鳴る音」を利用して踊りの伴奏に使用する。または、演じることそのものを指す



淀江作業所は、鳥取県米子市の保育所や公民館が並ぶ住宅地の中にある。主に精神に障がいを持つ人が作業やいろいろな活動をとおして社会性を身につけ、生きがいを持って生活できるよう援助するための通所施設だ。作業所を訪ね、所長の大田百子さん(グリーンコープ生協とっとり組合員)、スタッフ、メンバーのみなさんに話を聞いた。

## NPO法人 淀江作業所

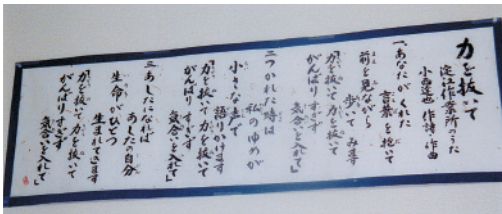
**淀**

江作業所は1988年、精神障がい者を持つ家族の「わが子に働く場所を」という強い思いから、小規模共同作業所としてスタートした。当初は通所者5人。淀江町老人福祉センターの作業室を借り、家族が作業援助を行って活動していた。2005年、障害者自立支援法の成立・施行後、作業所の存続と発展をめざして、特定非営利活動法人(NPO法人)となった。今年4月、農協の支所の倉庫を改装した新しい作業所に引越した。

現在スタッフは4人。通所者14人は、月から金まで、ほぼ全員が毎日通っている。募金や補助金で購入した廃油粉せつけん製造機でせつけんを製造・販売したり、独自に仕入れた手作り商品を各種イベントやバザーへ出店したりする。さらにこれらの商品を県内の施設の売店に置いてもらうなど販売網を確保している。

利用者の主体性を引き出すために  
現在所長を務める大田さんは三代目。大田さんが偶然スタッフとしてかわりだした11年前、作業所では

「力を抜いて～淀江作業所のうた」シンガーソングライターの小西達也さんが作業所のために作った歌。作業所の応援ソングとなっている



「力を抜いて～淀江作業所のうた」シンガーソングライターの小西達也さんが作業所のために作った歌。作業所の応援ソングとなっている

来る日も来る日も黙々と菓子箱の組み立てなどの内職作業に追われていた。「1万円の給料のために20日間この作業ばかりで満足なのか?」。疑問に思った大田さんは、メンバーに尋ねてみた。「満足ではないけど、他に仕事がないし」という返事。「じゃあ何がしたい?」。皆で話しあった結果、廃油でせつけんを作って自分たちで売ろうということになった。バザーなど人前に出るのに抵抗があったメンバーも、慣れてくるとお客と積極的に対応するようになった。この事業はその後淀江作業所の活動の柱となった。現在の淀江作業所で、日常的に行われる「ミーティング」はこの頃からはじまった。「どんなことがしたい?」、「どう思う?」、必要に応じて皆がテーブルを囲んで話しあうのが「ミーティング」だ。メンバーもスタッフもこれを結構楽しんでいて、「彼らに言われて初めて気が付くことは多いです。彼らのニーズや主体性を引き出せるかどうかはこちらの力量にかかっています」。スタッフは日々自分たちにそう言い聞かせている。

### 銭太鼓に触れ絆を育む

6年前、作業所の存在を知ってもらい、精神の病気をもちと理解してもらうために講演会を開催した。これは初めてメンバーが声をあげ、やり遂げた画期的な企画だった。ほとんどの精神障がい者は病気に闘いながら、前向きに懸命にがんばっている。しかし、障がいが見えないだけに、

◀ 淀江作業所では作業所の方向性や事業内容をメンバーらが自分たちで決める。取材や講演などを受ける時も「何をどうするか」を話しあう。また、作業所ではしょっちゅう揉め事があるが、そんな時も「即ミーティング」だ



| 2009年8月の組合員数 405550人 (8/26現在) |                            |                            |                             |
|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| リユース リサイクル データ 2009年7月分       |                            |                            |                             |
| 牛乳びん                          | リユースびん                     | トレー                        | モールドバック                     |
| 回収本数 1,105,947本<br>回収率 100.2% | 回収本数 228,319本<br>回収率 68.6% | 回収重量 11,491kg<br>回収率 60.4% | 回収重量 35,300kg<br>回収率 109.6% |
| (6月14日～7月18日回収分)              |                            |                            |                             |

### 放射能汚染測定結果報告(191) 2009年7月

| 検体名         | 産地  | セシウム134 | セシウム137 | 合計<br>ベクレル/kg |
|-------------|-----|---------|---------|---------------|
| ※ 北海道牛      | 北海道 | ND      | ND      | ND            |
| ※ 産直和牛肥後あか牛 | 熊本県 | ND      | ND      | ND            |
| ※ 豚肉        | 福岡県 | ND      | ND      | ND            |
| ※ 豚肉        | 宮崎県 | ND      | ND      | ND            |
| 豚飼料(人工乳)    |     | ND      | ND      | ND            |
| 豚飼料(仔豚用)    |     | ND      | ND      | ND            |
| 豚飼料(肉豚用)    |     | ND      | ND      | ND            |

その分余計辛いんです。もつとふてぶてしくなればいいのに。そうできないから病気になるたんでしょね」と大田さん。

精神障がいとは他の障がいと違い、思春期以降に発症することが多い。それだけに本人や家族は、より大きな喪失感に苦しむことになる。たくさんものを失ってきた彼らは、自分を飾る必要がないから自分に正直なのだ。「彼らと一緒にだ、本音でいられる。あんまり居心地がよくて、気が付いたら所長になっていました」と大田さんはひまわりのように笑った。

「どんな人にも無限の可能性がある。たとえ精神に障がいがあっても」。淀江作業所はその思いを発信し、活動の輪を地域と共に大きく広げて行く。病院や施設ではなく、生まれたところで暮らし続けるために、障がいのある人もない人も、共に暮らす社会をめざして。

### 地域の中に「共に生きる社会」をつくる

自主上映会、講演会、コンサート…。障がいの壁を越え、認めあうためのさまざまなイベントを行ううちに、地域の人たちも準備や運営にかかわるようになった。その過程で、精神障がい者と縁のなかった町の有志27人による「作業所応援団」が7年前に結成される。団員はそれぞれ自分のできる形で協力を惜しまない。その中の一人に、郷土芸能である「銭太鼓」を指

「ここはオアシス」。メンバーの勝部さんがいう。「みんなは家族みたいですよ」と松田千秋さんは、みんなのために毎日味噌汁を作るのが楽しいと微笑む。最年少(36歳)の八田一明さんは近い将来福祉の仕事に就きたいという。

確かに精神障がいは大変辛い病気、彼らも感情が激しくなる時がある。「彼らは周りにどう見られているか、痛いほど感じています。